

はじめに

世の中は、天変が続き、経済の先行きも不透明で、社会構造の変化の波が押し寄せる嵐のただ中にあります。リストラにより家庭の生活基盤が崩壊したり、雇用機会が激減し、卒業後の就労が延期され、待機を余儀なくされるなど、身近なところにも影響が及ぶようになってきました。

こうした時勢にあっては、あらためて教育の本義が問われます。

温故知新。故事には、『志（こころざし）は正（せい）を行う』とあります。

教育は、本来、崇高で清尚なる行いであり、性急に実益を求めるものではないため、「清らかに学ぶことで力を蓄えて時機の到来を待つ」と論じています。浮沈の激しい世の中であればこそ、教育は地下の水脈のように、信託に応え、子どもたちをいつくしみ、着実に学習を重ねることで成長を引き出し、自立につなげることを求められています。

特別支援教育もまた、障がいのある子ども一人ひとりの教育的ニーズを的確にとらえ、多様な実態の子どもたちにも適切で専門的な指導や支援を行うことを、その原点としています。

とりわけ、これからの特別支援教育において、特別支援教育コーディネーターは水先案内人として、大切な役割を担います。学校にはさまざまな教育的ニーズのある子どもがいます。従来はこのような子どもに対して学級担任が中心となって、関係する教職員間や保護者などと連絡調整を行いながら、望ましい指導を考えてきました。しかし今日では、多様な実態の子どもたちに適切に対応するには、学校内だけでなく外部の関係機関との連携・協力が欠かせなくなってきました。

こうした連携・協力をより発展させ、効率よく展開し、適切な支援を行うためには関係者相互の連絡調整を行うことを目的とするコーディネーターが必要となります。子どもたちは、学級担任や専科の教員、養護教諭、学校長、クラスメイト、保護者、医療・福祉関係の人々、地域社会などの環境に囲まれています。特別支援教育コーディネーターの役割は、子どもたちを取り巻くこれらの環境をうまく関連づけて、特別な教育的支援を必要とする子どもたちの幸せにつなげていくことです。

また、特別支援教育コーディネーターの役割や活動は多岐にわたりますが、1)それぞれの学校で、校内委員会の適切で円滑な運営を通して、特別支援教育を推進すること、2)特別支援教育の実践の各プロセスで、関わり合う人々たちを繋ぎ、知恵と力を引き出し、子どもたちへの支援に結びつけていくこと、3)保護者や関係機関に対する学校の窓口となること、4)担任の教師に対して、相談に応じたり、助言したりするなどの支援を行うこと、5)教育委員会等に設置されている専門家チームと連携し、巡回相談や校内での適切な教育的支援につなげること、6)小・中学校からの要請で、特別支援教育に関する支援を行うこと、7)ネットワークの構築、専門機関との交渉や人間関係の構築、協力関係を推進するための情報収集と情報共有、学校内外への積極的な情報発信、などです。これらの役割に必要な知識や技能は、一人の教員がはじめから備えているものではありません。経験や研修を積み上げることで、少しずつ広げ、深め、獲得していくものです。

特に、学校内外への積極的な情報発信は、今日の情報化社会においては、大変重要な役割となっています。本校における「コーディネーター通信」も、保護者向けの平易な情報提供を目的に発刊を重ねてまいりましたが、学校外の関係機関からも配布や既刊の再発行の要請があり、あらためて既刊分を一本に編んで上梓するはこびとなりました。

本校の教育が、子どもたちの自立と命の輝きを大切にして、人にやさしい共生社会を指呼できるように、さらなる研鑽に励んでまいりたいと考えております。この冊子の発行により、一人でも多くの方が本校の教育に関心を抱いて下さることを、そして忌憚のないご意見や厳しいご叱正をお寄せ下さることを、切にお願い申し上げます。

この研究に際し、これまでたくさんの先生方や関係者の皆様方から、懇切丁寧なご指導やご助言を賜りましたことに厚く御礼を申し上げます。ありがとうございます。

三重県立稲葉特別支援学校
校長 浅生 篤